



## 一きわ赤いお寺の紅葉 種田山頭火

関 宣也

立冬が過ぎ、朝晩の冷え込みに晩秋から冬の気配が深まる中、冬支度が必要な時期となってきました。今年も残すところあとわずかとなりました。

学校では文化祭も終わり、今は各学年、新たな目標を見付け、ゆっくりと舵を切り始めております。

さて、先月おこなわれました、文化祭ではご多用の中、多くの保護者の方に、合唱コンクールや作品を見学にいらしていただき、大変感謝をしております。例年、合唱コンクールは、『みなとみらいホール』でおこなっておりましたが、本年度の合唱コンクールは、感染症拡大防止や保護者席確保のため急遽、学校での開催となりました。

何も経験のないところから、この合唱コンクールを作り上げるということで、始めは戸惑いもありました。特に感染症拡大防止対策をどのようにして合唱コンクールをおこなうか、そして保護者の方にも安心して見ていただけるか、という点で、係は大変苦勞をしておりました。今回、『合唱コンクールは本当におこなっていいのだろうか』と何度も考えました。

しかし、そんな中でも、生徒は一生懸命練習し、係は万全の準備をしているのを見て、『**できない理由を考えるのではなく、どのようにしたらできるかの方法を考える**』ことに気持ちを切り替えました。おかげさまで、先月 17 日からの合唱コンクールを含めた文化祭週間を無事に開催し、終了することができました。ご協力に感謝致します。

終了後、3年生のある生徒から、こんな手紙をいただきました。

『合唱コンクールをやらせていただき、ありがとうございます。  
とても良い思い出になりました』

これを見たとき、開催できたことに大きな喜びと、安堵の思いでいっぱいになりました。今年はみんな本当に我慢して、よく耐えているな、と実感しました。

いつもであれば、一年間の数ある行事の中の一つである、文化祭【合唱コンクール】を、クラス一丸となり、一生懸命取り組みますが、終わればすぐに次の目標に向かって動き出さなくてはなりません。しかし本年度は終了後、じっくりかみしめる時間ができ、『良い思い出』という言葉が出てきたのではないかなと思います。

できない理由を考えれば枚挙にいとまがなく、様々な人の想いを想像しなければ、中止の判断は簡単でしたが、生徒たちは諦めずに、『どのようにすればできるかの方法を考えて』ことに大きな価値があると感じています。そして、私たち教職員は、改めて学校行事の価値や、必要性を再認識できた、“特別な”文化祭【合唱コンクール】でもありました。

現在、家庭内を含め、いつどこでコロナに感染するか分からない状況を考えますと、感染のリスクを完全に除くことはできませんが、今後の行事も、どのようにすればできるか、生徒にとって価値あるものか、をしっかりと考え、思い出に残る行事の一つでも多くおこないたいと強く感じた文化祭でした。

今後も、ご理解、ご協力をよろしくお願い致します。



# 文化祭

今年度は節目となる「第50回文化祭」でした。普通なら、準備段階や当日の各場面で「50回」にスポットを当てたことでしょう。けれど、そうはなりません。とにかく、目の前の「1回」を実行することしか考えられなかったからです。「文化祭はできるのか？合唱は…？」大きな疑問符に包まれ、文化委員会はスタートしました。

でも、いざ準備が始まってからは、新しい文化祭を創ろうとする活気が委員会に満ちていました。どんな形での開催にも対応できるようにと、全員が多様な作業に進んで取り組んでくれました。また、部活動や有志、生徒会、放送委員会をはじめとする各委員の皆さん。会場のイス並べや片付けを快く手伝ってくれた皆さん。何度も検討を重ね、力を合わせた先生方。6人の教育実習生。各自が今できることをやり、足りない部分を次々に埋めていきました。PTAの皆さんにも手を貸して頂きました。多くの人に支えられ、思い出深い50回目の文化祭を何とか無事にやり遂げることができました。本当にありがとうございました。

今回、改めて原中生の持つ力を実感しました。マスクでの合唱練習にも即適応し、「みなとみらいでも体育館でもやることは同じ」と言っている格好良さ。実際、みなとみらいホールの音響に負けない、心に響き渡る合唱でしたよね！（ちなみに、ステージに置いてあったホワイトボード等は即席反響版です。映像を観ると何でこんな所に？と不思議な感じがしますね）

「1年生」まだ一度も全校で集まってないという異様な事態の中、精一杯の姿を見せてくれてありがとう。そのひたむきさが先輩たちの頑張りを引き出しました。「2年生」手探りでやり方を練っていく過程で、沢山のアドバイスをくれてありがとう。合唱コンクールでは一番手。みんなの歌声は、中継を観ている1、3年生に勇気を届けました。「3年生」課題曲が無くなったり、文化祭以外にも思い描いていた通りにならないことが多い中、熱意を持って取り組んでくれてありがとう。めくりの完成度も圧巻！合唱もすごかったです。何より、3年生だけが体育館で参加した開祭式での、大いに、そして温かく盛り上げる姿に感動しました。「本気でやるから楽しい」ことを先輩が行動で示すのは、とても大切なことです。後輩がばっちり引き継いでくれることでしょう。

さらに、生徒の皆さんの感想で最も多かったのが「いつもとは異質な文化祭だったけど、ものすごく楽しめた」という内容でした。まだコロナで落ち着かない日々が続きますが、異質なことを受け入れてエンジョイできる原中生の前途は、希望あふれるものと確信しています。

最後になりましたが、保護者の皆様、大変な状況下にも関わらずお越し頂き、ありがとうございました。来られずとも、不安定な毎日の中で大きな行事を迎えるにあたり、ご家庭で様々なフォローや励ましをして頂いたことと思います。心から感謝しています。これからも、個々に違うお子様の、健やかな育ちを共に見守り支える仲間に、私どもも入れて頂けましたら幸いです。

(文化祭担当 井手英恵)

# 合唱部の発表

私達、合唱部は今年の文化祭で『瑠璃色の地球』『ぜんぶ』『足跡』アンコールで『そらまめ』を演奏しました。今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で、「Nコン」や「TBS子ども音楽コンクール」など合唱部としての成長を試す機会を失ってしまい、残念な気持ちでいっぱいでした。しかし、全校の皆さんに合唱部の歌を聴いていただく場をいただけたことに感謝しています。以前の合唱部は、存在すら認知されていないのでは、と部員が心配しているほどでしたが、ここ数年はコンクールに参加したり、学級でパートリーダーを務める部員が増えたりと徐々に実力がついてきたと感じています。また、今回の「そらまめ」は3年生の皆さんからのリクエストでアンコールとして入れました。期待されているんだと、とてもうれしく思っています。今後、生徒の皆さんが合唱っていいな、練習すればあんな合唱ができるんだ、などと目標にされるような歌声を目指して地道に努力したいと思います。

(合唱部顧問 二階堂夏帆 諏訪部紀子)

# 文化祭 開・閉祭式

開祭式のオープニングは、生徒会本部が合唱コンクールをテーマにした「劇」をしてくれました。今年は、生徒会本部もなかなか活動ができない中、素晴らしい「劇」を披露してくれました。

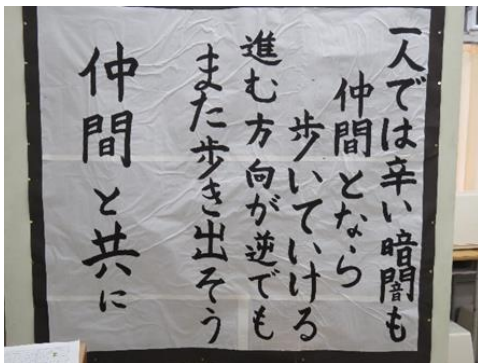
「ダンス」ではいくつかのグループに分かれそれぞれが持ち時間の中で発表するという形となりました。練習ができない中で当日はそれぞれのグループが持ち味を出して素晴らしい「ダンス」や「歌」を披露してくれました。会場にいた3年生も盛り上がる事ができたと思います。

また閉祭式も今年は体育館ではなくTV中継ということでいつもと違った閉祭式となりました。合唱コンクールの表彰を閉祭式で行い、例年通り各部門の担当から最後のあいさつを行い文化祭週間を締めくくることができました。今年度は例年と違った形でしたが全校生徒の協力がありできたことです。ありがとうございました。(開閉祭式担当 夏目嵩也)

# 文化祭 展示部門

B棟1階の特別教室や廊下を利用して、展示部門の発表をしました。美術部、書道部、情報工学部による日々の活動や、保健委員会の活動の成果についての発表、9組や各教科による日々の学習の成果など、各団体が素晴らしい作品を仕上げてくださいました。部活動だからこそみせられる作品の大きさを感じることができたり、教科ごとの発表からは、今後の学習の参考になることがたくさんあったりと、ただ見るだけではなく、生徒の一人ひとりの心に残ったものはとても大きかったようです。

今年度は、新型コロナウイルスの影響で、例年よりも展示されたものの数は少なくなってしまいました。しかし、この状況だからこそ一つひとつの作品への思いは強かったように感じました。先が見えない中で、文化委員が中心となりながら原中学校に関わる全員で作りに上げた文化祭、そして展示、、、込められた思いが来年度に伝わればと思っています。この場をお借りしまして、保護者の方をはじめ、見学していただいた方々、見学等の準備をしてくださった方々など、多くの皆様のご協力に感謝しています。ありがとうございました。(展示担当 井上 大之)



『東京オリンピック・パラリンピック横浜市ウェアサイト』のカウンタウン。原中学校の担当は27。  
横浜を象徴する風景と、オリンピックエンブレムの組市松紋をあしらった富士山をデザインした。

# 合唱コンクールを終えて ～音楽科より～

今年はコロナの影響で、例年のみなとみらいホールではなく、学校での開催となりました。また練習も密を避け、みんなで工夫して行いました。でもそんな状況にも負けず、各クラス、各学年ともに素晴らしい合唱を披露してくれました。

最初は2年生の発表でした。1年生からの成長した合唱を聴かせてくれました。男声の力強い歌声や女声の伸びやかな歌声が体育館いっぱいに響き渡りました。それぞれの曲の特徴をつかみ、表情豊かに歌う合唱に感動しました。

次の発表は1年生でした。全員が指揮を見て一生懸命に歌う姿は、なにものにも代えがたいと思います。初めての合唱コンクールで、練習の仕方や歌の仕上げ方など苦労したことも多かったと思いますが、そのすべてが今後につながります。来年度は、さらにいい合唱を作り上げていってください。

そして最後は3年生の発表でした。さすが3年生!!!と感心しました。どのクラスも難曲に挑戦し、しっかり歌い上げていました。今年は、様々な行事が延期や中止になり、この合唱コンクールにかける思いも例年以上に強かったのではないのでしょうか。歌っている人たち、聴いている人たち、みんなが感動できる素晴らしい合唱だったと思います。

賞に輝いたクラス、おめでとう！みんなが賞を目指して頑張ってきたと思いますが、この行事は賞を取ることだけが目的ではありません。クラスで決めた曲を、みんなで声を合わせ、息を合わせ、心を合わせて作り上げていく過程が一番大切だと思います。指揮者、伴奏者、パートリーダーをはじめクラスの中心となって練習に取り組んでくれた人、大変なこともありましたね。歌が苦手だけどたくさん練習して上手くなった人も多かったと思います。みんなが成長できたことが、このコンクールの最大の成果だったのではないのでしょうか。

唯一残念だったのが、自分の学年以外の合唱を体育館で鑑賞することできなかったことです。やっぱり上級生の合唱を生で聴いてほしかった、、来年は、きっと全員が体育館で聴くことができるはずです。来年度は、今年のように、いや今年以上の合唱コンクールを作り上げていきましょう。

## 力作ぞろいの合唱めくりプログラム

